「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
根岸中学校

		月	火	水	木	金
勤務時間	8:15	職員打合せ				
	8:25	開門・生徒登校・健康観察				
	8:40	朝学活				
	8:45	MNT（モーニング・ネギシタイム）				
	8:55	予鈴（授業準備）				
	9:00	45	45	45	45	45
		45	45	45	45	45
		45	45	45	45	45
		45	45	45	45	45
	12:35	昼食				
	12:55	昼休み、またはLNT（ランチタイムNT）				
	13:15	45	45	45	45	45
	14:10	45	45		45	45
	15:00	帰りの会				
	15:10	ANT(アフタヌーンNT)				
		学校裁量の時間				
退勤時刻	16:45					

【持続可能な学校】

1　学校裁量の時間を生み出すため
- 給食を中心に据えた日課を作成
- 健康観察から午前の時程を統一
- 45分授業による３つのNTを創出
- 総授業時数を確保する７コマ授業

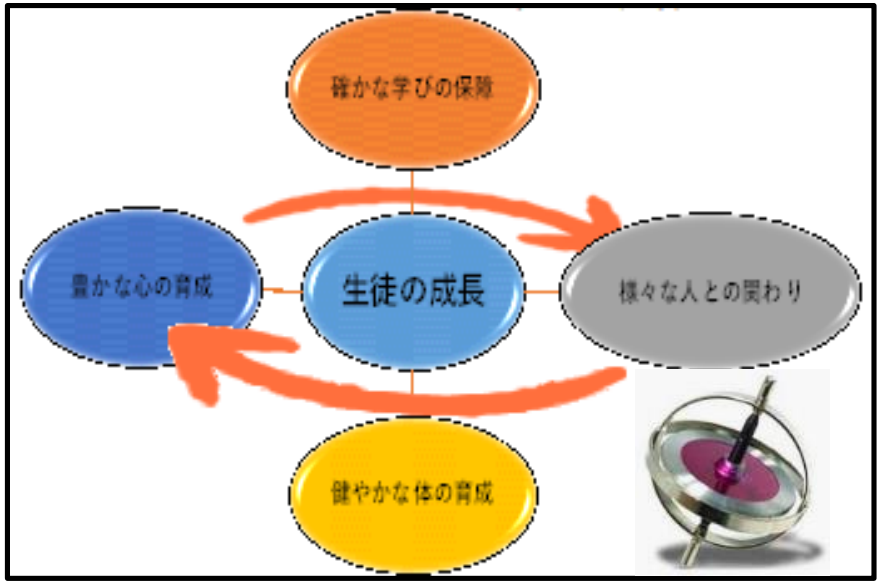
2　教職員の状況等に配慮した時間割
- 介護や育児、特定曜日の出勤出張
- 定例の教科会等も時間割内に

3　学校裁量の時間を有効活用
- 会議開始も早め、勤務時間内に終了

【質の高い学び】

1　学校裁量の時間を有効活用
- 教材研究や評価、事務処理時間に
- モジュールの時間を利用

2　専門性を生かす教科の細分化
- 国語（国語と言語）
- 社会（歴史と公民）
- 理科（１分野と２分野）で実施
（持ち時数の均等化にも役立つ）



【成果や課題】…エビデンスや教職員の声

【成果】年度初めに中期学校経営方針の策定や教育課程の編成をする際、全教職員がそれぞれの分掌を通じて取り組むべき教育活動を考え、教育理念を右図のような「健やかな体づくり」を土台として生徒の成長を支える形にまとめられたこと。

【課題】必修教科の授業時間確保のためには、従前の放課後の活動を精選する必要がある。　　【エビデンス等については、現在集約中】

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
青木小学校

【持続可能な学校】

〇日課の変更・改善
- １時間４５分授業、午前中の５分休憩は変えない。
- ６校時授業で１５時完全下校（委員会、クラブ以外）
- 朝の帯　→　週４回１モジュールの授業の時間、週１回　朝会、集会、体力アップ、読書の時間へ
- 中休み３０分から２５分へ
- 清掃２０分から１５分へ
- 水曜は清掃なし→昼休みへ
- 木曜はクラブ、委員会、PJ活動以外は６校時なし
- 金曜は全学年５時間授業

〇働き方改革の推進
- 働き方分析ツールの活用。

【質の高い学び】

〇月１回　学年研カリ・マネタイム
- なるべく６校時のない日に設定。
- カリの見直し、振り返りをしている。

〇重点研は６校時のない金曜日に設定
- 生活・総合を柱にしたカリ・マネの推進

〇校内研修・メンター研の充実
- YPの活用の推進
- メンター研で国語の授業研究

〇教材研究日（ノー会議デー）導入

〇会議の精選→特別支援教育校内委員会を定期開催
- 教育的ニーズに沿った指導・支援ができるように
- だれもが学習参加できるように組織的に支援

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

成果
- 平日の持ち帰り仕事の時間や休日出勤の日数が市平均より少ない。（働き方分析ツール結果）
- 教職員どうしが話をする時間が増え、授業の進め方などが話せるようになった。（教職員の声）
- 放課後の時間で、様々なことができる時間が増えた。（児童アンケート結果）

課題
- 児童との接し方や突発的な対応に悩む職員の増加（働き方分析ツール結果）
- 掃除時間が減り、教室が汚く感じる。（教職員・児童アンケート結果）
- 教材研究の時間がまだまだ足りない。（教職員の声）

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
あざみ野第二小

【持続可能な学校】

今までの取組

- 留守番電話設定　・ミライムの導入
- あゆみの見直し　・定時退勤日の設定
- 学校・地域支援コーディネーターにボランティアの依頼を委託する。

教師のHappyが児童のSmileを生む

① 計画年休…… … 8月末～12月に一人１回以上実施
② 19時までに退勤…16:45チャイム、18:00・18:45に音楽を流す
③ 定時退勤日… …原則、毎月第3金曜日：全校完全定時退勤日
　原則、月１回以上、完全定時退勤日を自分で設定
④ サークル活動…勤務時間に活動時間を確保し、趣味を同行するもので活動し、コミュニケーションを深めたり、ストレス解消に役立てたりする。

【質の高い学び】

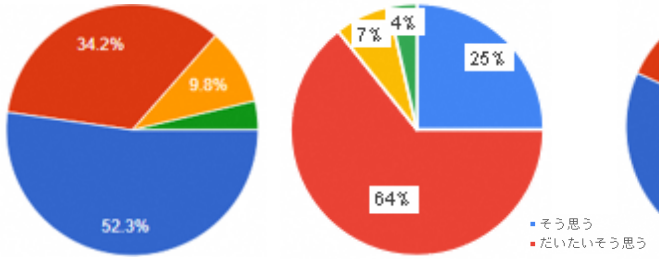
■【午前5時間授業】
1　40分×5コマ＋20分(モジュール)＋40分
　*AM…集中力が高い　40分×５コマ　*40分＋40分も有
　*PM…Short TimeやLong Time　＊20分と40分　or　20分＋40分
2　授業コマ数増加
　*40分授業になった分、授業のコマ数を増やし学習内容を確保
　*例：6年体育　45分×90回→40分×102コマ　（＋12コマ）
3　ICT機器の活用
　*ロイロノートスクール、Google Classroom、Meet etc

■【チーム学年経営】
1　チームマネージャー
　*3クラスの担任＋TMとして教員を加え、４人で見守り、指導・支援。
2　教科分担制
　*3人の担任＝社会・理科・体育　TM…図工・家庭科・(音楽)
3　算数コース別学習
　*担任＋TMの4人で、３クラスを４つのコースに分けて指導
　*ぐんぐんコース③＋こつこつコース①

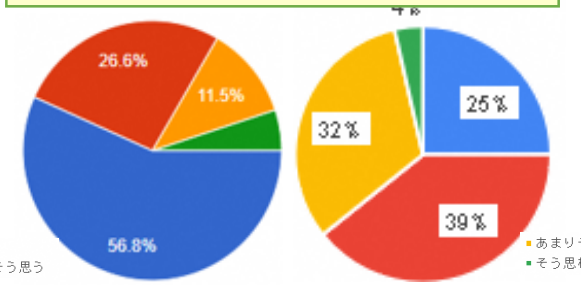
【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

【アンケート結果】*左…児童　右…職員

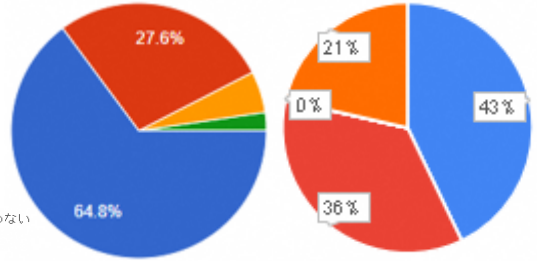
1　午前５時間授業は勉強に集中できる



3　放課後の時間を有効に使えるようになった。



4　いろいろな先生に教えてもらうことで、授業がより詳しくわかる



- 児童と職員のアンケート結果はほぼ同じ。
- 午前5時間授業(40分×５コマ)と教科分担制の共存で、質の高い学びへ向かいつつある。
- 複数の教員での見守りで学年経営が安定している。
- Happy　Timeの取組で時間外在校時間が減少した。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
伊勢山小学校

【持続可能な学校】

○日課表の工夫(下校時間繰り上げ・余剰時数削減)

・午前５時間４０分制授業　→　14:50下校
・①9.8・②18.3・③8.0・④3.1・⑤21.1・⑥6.6

教科	週予定	1/2	週コマ数	累計	標準コマ	前期計	後期計	年間コマ数	残コマ数	達成率
国語	7.5	2	1	187.5	202.1	187.5		344.25	156.75	54.5%
社会										
算数	3.3	4	2	80	89.8	80.0		153	73	52.3%
理科										
生活	2.5			66	67.4	66.0		114.75	48.75	57.5%
音楽	1.7	4	2	43.5	44.9	43.5		76.5	33	56.9%
図画工作	1.7			37	44.9	37.0		76.5	39.5	48.4%

○効率的な環境の整備

・週案の工夫 (達成率・アラート・年間指導計画)
・休憩時間の確保（15:00～15:45）
・特別教室予約（ミライム　⇒　Googleドライブ）
　残業時間削減（泉区内No.1・80時間越え０人）

【質の高い学び】

○高学年教科分担制

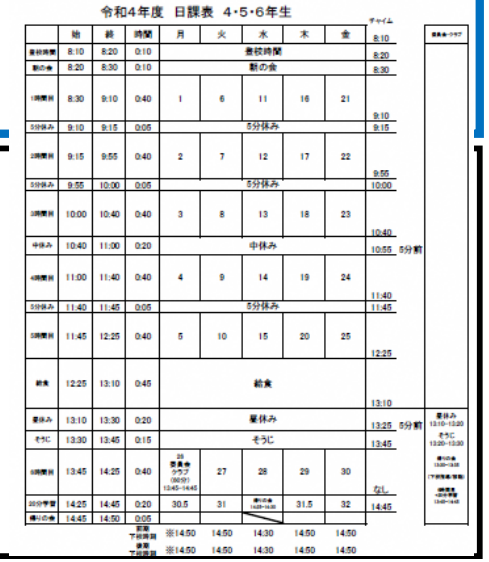
・算数・理科・社会・外国語・音楽・家庭科・書写

○ICTの活用

・ロイロノート(音読録音・動画付き学習カード…)

○学校教育目標実現に向けて

・児童の現状、課題などを
　学校職員で話合い



【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

○成果

・児童が授業に集中できている。
・内容を精選することを考えるようになった。
・効率を考えて仕事を進めるようになった。
・教材研究の時間が確保できるようになった。

○課題

・年間カリキュラムを意識した指導。
・専科の授業が増えたことで、
　スケジュール調整が難しい。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
今宿小学校

【持続可能な学校】

1　日課表
❶朝１M×３日 ❷清掃無の日
❸１学年(木)４時間 ❹全学年(水)(金)５時間

2　研修時間創出　●企画会と同時進行で実施

3　テストとドリル
❶選ぶ時間 ❷週案 ❸学習予定 ❹〇付けの半自動化
❺デジタルドリル

4　始業時刻、終業時刻　●8:10～16:40

5　健康観察　●ロイロノート活用

【質の高い学び】

1　グループワークと思考ツール
❶グループワークや思考ツール研修を実施
❷夏休み前は授業研をせずに研修中心に
❸学状データを活用
❹グループで授業づくり

2　教科担当制の部分実施と少人数指導
❶３年生以上は算数少人数
❷３年生以上で教科担当制の部分実施

3　コーチング　●６学年６回のコーチングを実施

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

▼「持続可能な」と考え様々取り組んでいるが、そう簡単に勤務時間が減ってはいない。一人ひとりの意識ももちろんだが、授業が６校時まであり、人手不足の中、早くは帰れない実態がある。標準時数の削減、あるいは、事務職員を増やして会計や転出入業務を完全に事務に移行した方がよいのではないかと感じている。また、臨任非常勤の確実な配置が必要。

▼グループワークを活かした授業がなかなか浸透しない。思考ツールの実践は確実に進んでいる人と全く手を付けられない人の二極化が起きている。

◎全体としては、まずまずの成果。今後も改善は必要。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
牛久保小学校

【持続可能な学校】
- 会議、打合せ時刻を定刻（１５：３０）
- 放課後の予定の固定化
  月：会議　火・金：研修・教材研究　水：市AB研
  木：学年研・ブロック研・学年主任会（年4回）
- 曜日別下校時刻の表示（画像）
  →職員室職員にも分かりやすい
- 組織的な運営
  チームマネージャ・教科担任（高学年）
  体育館・校庭使用を学年連続
  （道具の準備・片付け時間の削減）
- 日常的な環境整備（職員室・特別教室）

【質の高い学び】
- 教材研究時間の確保
- 学年で教材研究を行い、共有
- 40分授業の活用へ向けた授業計画
- 体育時の活動時間の確保
- 研修時間の確保
  →体育研修（10／18）1時間

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】
- 裁量の時間が毎日確保され、児童の情報共有や教材研究、学級事務の仕事が進められる。
- 研究授業日にも、16時過ぎには終了するため、ゆとりをもって仕事を進められる。
- 放課後の時間が増え、子ども同士で遊ぶ時間も増えている。放課後、学校に遊びにくる子が増えた。
- 職員アンケートより
（7：裁量のある時間が増えた7割　14：集中力の高まりを感じる7割　15：児童は生き生き　7割）

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
大岡小学校

【持続可能な学校】

①日課表を変更し、教職員の裁量ある時間を確保

・児童が14時55分までに完全下校するように改定。
・会議も15時から開始することができるので、勤務時間内に終えることができる。（割り振りは15:45～16:30）
・朝読書　➡　朝学習　に変更し時数を確保。
（モジュールの活用）

②会議や研究等、放課後の予定を曜日で固定し、余裕のある学校運営を行う

・教職員の裁量ある時間を毎週、確実に確保することができる。
・教材研究や児童指導に関する業務の時間を確保することで、教職員自らが効率的な働き方を心がける。

③「働き方改革」に対する教職員の意識改革

・研修や話合いを重ね、効率の良い仕事の進め方や学習評価の具体的な進め方等を共有し、勤務時間内でより高いパフォーマンスを発揮できるよう意識を高める。

【質の高い学び】

①教職員の裁量ある時間の活用

・児童指導に関する情報共有や、きめ細かく対応するための時間を確保する。
・教職員自らが積極的に学級のカリキュラムマネジメントを行う意識を高める。

②より質の高い授業づくりを目指す研究の在り方

・単元づくり、活動案、本時案、板書計画、問計画等、ブロックで徹底的に練ることで、
授業者をサポートし、育成する。
・教材研究や授業の準備等の充実により、質の高い授業づくりにつながる。

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

【成果】・児童指導に関する情報共有や対応の時間を確保することができ、チームで協働して解決する体制を整えることができた。
・教職員自らが積極的に学級のカリキュラムマネジメントを行うことで、より質の高い授業を展開し、子どもたちの資質・能力の向上につながった。

【課題】・朝学習の活用方法については、今年度の実践を振り返り、よりよい活用方法を検討していく必要がある。確実に時数がカウントされていくため、教科や単元の精選が必要である。
・「働き方改革」に対する教職員の意識改革については、職員一人ひとりが意識を高めていくことができるよう、今後も継続的に研修や話合いを行う。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
釜利谷南小学校

【持続可能な学校】

継続的な取組の持続

・ICT活用による教職員間の情報共有と会議の精選
・マチコミメールを活用した保護者との連絡
・40分授業と50分授業の効果的な組み合わせ
・「チーム学年経営」との併用

学校の実態に合わせた変革

・他校との情報交換会で得られた方策の導入
　→学習評価（あゆみの見直しと個人面談の充実）
・日課表の定期的な見直し
　より子どもたちが使いやすい時間設定に

【質の高い学び】

教員の指導力向上

・ICT機器を活用した授業づくりと児童の見取り
・40分授業の内容の充実と精選
　→45分授業と変わらない学習内容の確保を目指す
・全学年で少人数学習と教科担任制の実施
　→教員の空き時間を増やすことによる負担軽減
　→教員の教材研究にかかる負担軽減と授業の充実

学びの環境の充実

・ICT環境の充実と運用上のルール整備
・特別教室や教材・教具の整備・充実

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

成果

・教職員も児童も40分授業に慣れ、教職員が40分で完結するような授業改善を図るようになった。
・今まで継続して行ってきた行事等とICT機器の活用など新しい取組の両方をうまく取り入れながら学習活動が行われるようになった。

課題

・学習活動の充実に伴う教材研究や打ち合わせ等、教職員の残業時間の増加が見られた。
・来年度以降、教職員の入れ替わりにより、今までの取組がスムーズに引き継がれるような手立てが必要。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
川井小学校

【持続可能な学校】

大前提として、職員の裁量ある時間を生み出す

○下校時刻を早めて時間を生み出す。
・４０分授業AM５時間制、下校時刻14：35

○業務のアウトソーシングで時間を生み出す。
・教室ワックスがけ、プール清掃、
フィルター清掃等、福祉作業所へ委託

○研究する教科を絞って時間を生み出す。
・全学年教科分担制導入

○専科を充実させ時間を生み出す。
・チーム学年経営、29時間非常勤、空き時間確保

○会議の精選で時間を生み出す。
・グループウェアでの共有、打ち合わせ廃止

○組織改革によって職員の「自己有用感」と「裁量ある時間」を生み出す。
・学校運営委員会を職員全員が参加する２部会へ
・様々な会議を２部会に集約し、精選していく。

【質の高い学び】

生み出された時間を質の高い学びに結び付ける

○児童の集中力の持続
・４０分でテンポ感のある学習展開

○疲れの出る前にしっかり学習
・体力のあるAMに５時間学習

○研究が深まり授業力が高まる。
・教科を絞ることで研究が深まる。
・同じ授業を複数クラスで行い授業力アップ

○専門性の高い授業で興味関心が高まる。
・専科の充実により児童の好奇心を満たす。

○生み出された時間の有効活用
・裁量ある時間を教材研究に投入

○効果は質の高い学びにとどまらない。
・学年の全クラスで授業することで児童理解が深まる。
・放課後の裁量ある時間に児童・保護者の情報共有
・２部会参加で学校運営参画意識の向上、自己有用感の高まり

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

職員間の情報共有や日常的な相談は以前に比べて増えましたか？（肯定70.8%）
柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントのもと、児童生徒の集中力に高まりを感じますか？（肯定70.8%）
柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントのもと、児童生徒はいきいきと活動していますか？（肯定75%）
柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントには、ICT機器の活用が有効だと感じますか？（肯定83.3%）

「持続可能な学校」に向けた取組を通して、「質の高い学び」に確実に近づいていることが実感されている。またICT活用が、親和性が高いと感じられているようだ。コミュニケーションも増えている。

勤務時間内にご自身の裁量のある時間は増えましたか？（肯定62.5%）
余裕を持って業務に取り組むことはできていますか？（肯定54.2%）
帰宅時刻は以前に比べて早まりましたか？（肯定62.5%）

一方で、裁量のある時間の確保に慣れてしまったのか、ゆとりや余裕を実感しにくくなっている状況も見られる。定時退勤日を市研、AB研日と月３回とるなど工夫しているが、業務内容精選、簡略化など、今後も取り組んでいく必要がある。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
川上北小学校

【持続可能な学校】

午前5時間制40分授業導入の取組

◇朝学習⇒午後20分間の学習タイム
◇クラブ・委員会⇒水曜日の13:40～14:30＊月1回全校午前授業
◇会議⇒水曜日と火曜日or金曜日は放課後会議なし
◇校内で、4月・7月に「持続可能な学校づくりワーキング」を実施
＊自分自身の働き方・学年、各種委員会での働き方の見直し
◇9月からの取組
・自己目標の設定
・職員会議等の資料をペーパーレスで随時確認
⇒ロイロで共有
・学年間の情報共有、連携
⇒週案、学年研記録、特別教室の使用をロイロで共有
（最新情報を一斉に共有可能）

【質の高い学び】

40分授業、20分の学習タイムの活用の取組

◇1単位40分で展開することで単元計画の時数の柔軟化
・45分×6=270　⇒　40×7=280
◇学習タイム20分と40分授業を合わせた60分授業の活用
・2学年で行う音楽集会「ドレミファ集会」の充実
・60分での理科の実験
・60分でじっくり考え創り上げる高学年の活動に効果的
・学習タイム（20分）でワークシートに記入⇒40分授業
◇20分の学習タイムの活用法・ワークシートや導入まとめの工夫
・算数で40分授業でまとめまで、学習タイムで演習⇒定着
・ワークシート記入、漢字学習など短期集中の時間として活用
・文章で伝える学習、学習タイムでみんなへの質問時間の確保
◇校内授業研究で「1単位時間を40分で展開するための工夫」

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

【成果】

◇職員から
・午前5時間制40分授業で児童の集中力が高まった。
・勤務時間内に自分の仕事をする時間が増えた。
◇ワーキング実施後、超過勤務時間の減少
◇ロイロで資料の共有化による効率化（学年、ブロック、全職員）

【課題】

◇次年度の効率化へ向けた取組の予定
・学校便り、学年便りの精選
・体力テストの記録のICT化、ロイロの充実⇒ ICTの有効活用
◇質の高い学びに向けた授業改善、カリキュラムマネジメント
・授業研究の継続、学習タイムとの組み合わせの実践の蓄積

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

さわの里小学校

【持続可能な学校】

遅くても14:30下校 行事予定に【ノー会議】【出席簿処理日】の確保

日課表を変更し、委員会活動やクラブ活動の時でも、14時30下校。休憩時間終わりの15時15分から定時までの時間をどう使うか、何に有限な時間的な資源を使うかを考えることができます。

学校づくりワーキング・さわcafé

「学校の強みや課題を共有すること」「組織として共通の目標に向かうこと」「思いを共有すること」「職員の今を伝え合うこと」一人ひとりがさわの里小学校をつくるメンバーという意識を共有するための「対話」を大事にしています。

【質の高い学び】

午前5時間×40分

８時25分より１校時開始。集中力の高い午前中に、５コマを実施することによって、思考力を働かせることによる学力の向上を目指しています。午後は、50分授業としています。

授業改善タイム

「いま知りたい」という職員の要望や課題意識に即時的に対応するべきテーマを設定できます。カリ・マネに向けて「みんなと」考え、情報の交流、共有ができる機会としています。

SSDの活用

さわ小シェアドライブ（SSD）を活用して、ドライブに必要な情報を格納することで、「いつでも」「どこからでも」対話が生まれる情報を共有できる仕組みを構築しています。

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

・児童にとってシンプルな日課表となり生活のリズムがつくりやすい。
・児童の集中力が高い午前に5時間の学習活動ができるよさがある。

7　勤務時間内にご自身の裁量のある時間は増えましたか？

	そう思う	ややそう思う	以前と変わらない	やや思わない	思わない
回答数	6	8	7	0	5
%	23.1	30.8	26.9	0	19.2
	肯定的			否定的	
%	53.8			19.2	

・遅くても14:30に児童が下校するので、放課後の時間が今までより多くとれるようになった。

・朝の時間が慌ただしく、8:25からの１時間目開始に「合わせている感じ」がする。
・中休みが短く、活動時間の保証が難しい。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
獅子ケ谷小学校

【持続可能な学校】

- **午前５時間40分授業、午後１時間+20分モジュール**
  ⇒６時間授業の下校時刻 14時55分
- **教職員の出勤時刻（８時00分～16時30分）**
  ⇒児童の登校前に職員が出勤
- **休み時間の時間差設定、クラブ活動の分散**
  ⇒けがの減少、活動の充実
- **職員会議・授業研究会等の日程**
  ⇒下校時刻を早めて、休憩時間を確保
- **会議の精選**
  ⇒定例会議は月１回の教務会・職員会議のみ
- **ミライムの活用**
  ⇒打合せは週１回10分程
- **ノー残業デー、働き方改革委員会、働き方研修**

【質の高い学び】

- **40分授業と20分モジュールの活用**
  午前40分授業による集中力の向上
  20分モジュールを用いた基礎学力の定着
- **ICTの活用（アナログとデジタルの併用）**

調べ学習・思考操作

文章構成の作成

- 情報や考えの整理
- 意見や考えの共有
- 児童間の質問・助言

- **教材の共有化**
  教材研究の効率化　授業実践の活用
  プリントやワークシートの有効活用

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

＜教職員アンケート＞

裁量ある時間が増えたか。

余裕をもって、業務に取り組めるか。

授業準備の時間がもっと欲しい。

教諭(担任)
3年未満 28%
5年未満 41%

＜成果＞
教職員・児童の負担軽減と学校の安定
放課後の裁量ある時間の増加

＜課題＞
教職員を育てながら、質の高い学びと持続可能な学校の両立へ

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
菅田の丘小学校

【持続可能な学校】

◇花笑みワーク（学校づくりワーキング）の実施
〇全職員で肩ひじ張らず、思いを語り合う。
→職員の関係性の深化
→中期学校経営方針の実施状況の把握
→ミドルリーダーの資質向上

◇教員の裁量ある時間の確保
〇時間割を工夫し下校時刻を６校時で14：50に
〇業務のアウトソース（エアコン清掃・ワックス）

◇教育ボランティアの積極的活用
〇地域コーディネーターから発信、取りまとめ
〇地域ケアプラザとの連携

【質の高い学び】

◇時間割の工夫
〇朝モジュール　→　基礎・基本の定着を意識
〇学習内容に合わせた柔軟な授業時間の工夫

◇ICT機器の活用
〇ICTコーディネーターを中心とした研修・実践
・「学習の質を高める」視点
・「学習を効率よく進める」視点
〇次年度導入を見据えた「スマイルネクスト」試行

◇教科横断的な視点を大切にした学習
〇自分づくり科（仮）策定に向けた検討
※併設型小中一貫校の独自教科（令和７年度実施）

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】　※アンケート結果から
〇「児童生徒が生き生きと活動」肯定的回答　取組校全体：64.0%　本校：70.8%
→中休みや昼休みを確保することで、学校生活が充実しているものと考える
〇「ICT機器の活用が有効」肯定的回答　取組校全体：84.9%　本校：100%
→成果（子どもの成長した姿・効果的な取組等）を共有し、職員の自信や推進のモチベーションにつなげる
〇「業務量はあまり変わっていない」「特定の教員の業務量が多い」などの声
→視点を「時間の確保」から「具体的な業務の見直し」「効率のよい業務の進め方」へ

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
高舟台小学校

【持続可能な学校】

○放課後の時間の確保

・日課表の工夫、完全下校の徹底、休憩休息時間の確保、打合せ回数削減による放課後時間の確保
（これまでの30分から60分に拡大）
・児童のいる時間におけるていねいな聞き取りや児童指導、迅速な保護者対応を心がけ、トラブルにしない。

○余剰時間の見直しをする

・今年度、多い学年で20時間程度ある余剰時間の見直しをする
・午前授業や、6時間目カットの日をできるだけ確保できるようにする

【質の高い学び】

○教科分担制

・教材研究の焦点化や実践の検証による授業改善、評価の一貫性、さらには学年担として授業を通しての児童理解などをねらう。
・昨年度は５・６年の社会・理科を教科分担。
・今年度は３・４年の社会・理科や１・２年の音楽・図工など、学年内で教科分担について、単元や時期などで実施を予定している。

○チーム学年経営

・学年研の初めの時間などで、ブロックによる児童指導の情報交換や教材研究をする。
・各ブロックに教科担当1名が所属し、また各ブロックに１名教務部の教員がいる。
・学年内だけでなく、ブロック内でのたてやななめの人材育成を。
・児童指導では、発達段階が近い学年同士で、積極的に情報交換することで、同フロアや同校舎での気づきや関わりを生かす。
・行事運営も、これまでと同様に運動会や水泳、体力テストなどブロックで活動する際はもちろんのこと、活動が同じでなくても、お互いがよき相談相手になる。
・学年の打合せ内容が多く、どうしてもブロック研ができないことはある。実際に木曜日は専任が出張で参加できないことも多い。ブロック研の時間の確保は課題。

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

・「後期や次年度に向けての学校経営方針」や「持続可能な学校のあり方を探る実践モデル校」の取組を踏まえて、各ブロックで日課表の見直しを中心に検討した。
・放課後の時間の確保は大切だが、児童が学校で過ごす時間を大切にしたいという声が職員から挙がった。
・職員に、児童との時間を大切にする意識が定着している。
・子どもファーストと持続可能な学校、質の高い学びを目指し、次年度は日課表の部分的な見直しによる教育活動を進める。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
茅ケ崎東小学校

【持続可能な学校】

（１）環境改革

①登校時間８：１０
②新学校・学年だより
③常設の情報統括
④新企画会
⑤マイフライデー
⑥リーバー導入
⑦職員室チャイム導入
⑧余白を削る

（２）意識改革

①職員会議後のプチ研修
②マイワークシート

【質の高い学び】

①高学年教科担当制
②デジタル教科書の活用・研修
③体育ビックデータの活用（共有）
④ロイロノートでデータ共有
⑤朝学習の学年に応じた実施調整

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

昨年との比較（前期分）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R3		第4波			第5波	分散授業
	37:48:25	32:24:52	40:26:28	26:35:54	6:39:28	33:51:38

R4			第7波			
	30:58:35	29:49:06	32:52:09	20:16:08	5:31:14	29:27:13
	6時間49分減	2時間35分減	7時間34分減	6時間19分減	1時間8分減	4時間24分減

合計113時間 削減　　平均28時間52分21秒　減

４５時間以上の職員の人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R1年度	20	18	25	6	0	19
R2年度	1	0	6	11	0	16
R3年度	14	8	19	1	0	5
R4年度	4	3	9	1	0	4

〇職員残業平均時間全月３５時間以内
〇Ｒ３年度と比較（半年）
・平均時間２８時間５２分減
・４５時間以上勤務職員１０人減

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
つづきの丘小学校

【持続可能な学校】

●午後の授業を月・火・木は**６０分授業**、水・金は**４０分授業**（１・２年生は全日**３０分授業**）とし、**ロングタイム**や**ショートタイム**を設けた。活動を伴うものや４０分では時間が足りないものを、６０分授業で行い、力を定着させるための活動は３０分授業で行っている。

		月	火	水	木	金
登校	8:15~8:25					
健康観察・朝の会	~8:30					
１校時	8:30 9:10	40分授業	40分授業	40分授業	40分授業	40分授業
移動・準備						
昼休み＆清掃	~1:35	昼休み（~1:25）清掃（~1:35）				
６校時	スキルタイム 2:05	※ロングタイムのない学年はスキルタイム終了後下校				
	ロングタイム 2:35	60分授業	60分授業	40分授業	60分授業	40分授業
下校時刻		2:15or2:45	2:15or2:45	2:15or2:25	2:15or2:45	2:15or2:25

●**会議の時間**を**１４時４５分**から設定可能（水・金）。校外学習の**下見**も**勤務時間内**で行うことが可能。

●**余剰時間**をできるだけ**削減**することを目指し、**１年生**は**５月末**まで、**２年生**は**４月末**まで**５時間授業**とした。

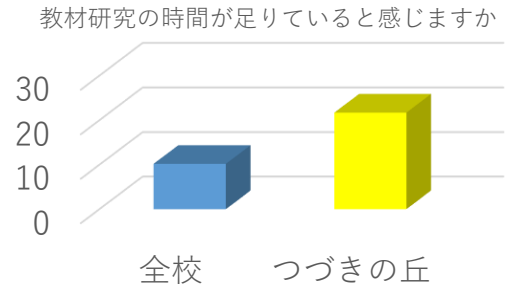
●**学年研**を毎週火曜日に設定しているが、**学年に応じて**木曜日にも設定できるように、**会議等を調整した。**

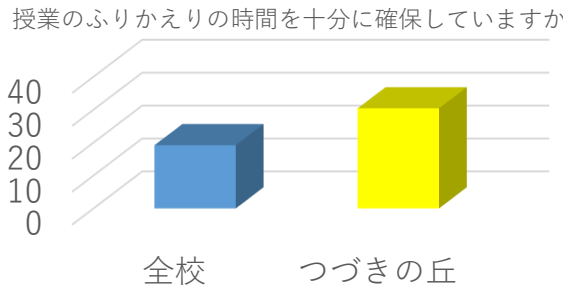
【質の高い学び】

●**タブレット**を活用し、作成した教材や振り返りなどを**共有**した。

●**職員会議**の連絡事項はミライム等で発信し、代わりに**学年やブロック**で、教育課程や児童について**話す時間**を設けた。

●下校後の時間で、**重点研**や**メンター研**、**研修等**を**充実**させた。





「働き方アンケート」の集計結果

●全校平均と比べて、本校は**「教材研究の時間が足りている」「授業のふりかえりの時間を十分に確保している」**と感じている**割合が高い**。

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

●肯定的な意見の割合（モデル校全体と比べて高い順）
「児童の集中力に高まりを感じた」６８．８％
「児童はいきいきと活動している」６８・８％
「ICT 機器の活用が有効と感じる」９３．８％
「帰宅時刻は以前より早まったか」５６・３％

●成果
「業務改革の意識をもって**若手職員がタブレット端末を使った学習に挑戦しており**、結果として、児童にとっても質の高い授業へつながるケースが見られた。」

●課題
「時間の削減に重きを置いた分、**情報共有が不足しがち。**その結果、業務に偏りが生じているように感じる。**情報共有の在り方を組織的に考える必要がある。**」

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
奈良小学校

【持続可能な学校】

①日課表の変更による裁量ある時間の確保

➡午前５コマで下校時刻が早まり、裁量ある時間が確保できる

➡会議開始時刻が30分早まり、勤務時間内に終わる

②行事や児童活動の見直し

➡授業時数を確保➡休憩をとってからの個人面談

③組織の改編

➡各校務分掌で担う業務内容を明確化➡時間のロス減少

④会議のタイムマネジメントの意識化

➡３０分程度で終わり、その後裁量のある時間に使える

【質の高い学び】

①教職員間のコミュニケーションの増加

子どもの学習や児童指導などの話、雑談

②教育効果という視点での取組の反省

さらなる教育活動の精選

③ICTの効果的な活用

導入、振り返り、動画活用など活用場面や方法の情報共有

④単元デザイン

どこを学習タイムにもっていくか

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

【成果】

放課後にゆとりができ、教材研究や児童について語り合う時間が増えた。

午前中に5コマのため活動に集中して取り組める。

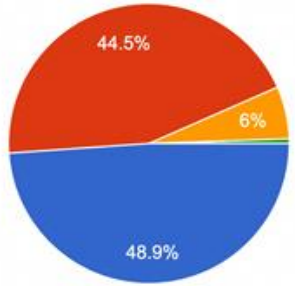
裁量ある時間が増えましたか？

	そう思う	ややそう思う
回答数	6	12
%	23.1	46.2
	肯定的	
%	69.2	

余裕をもって業務に取り組むことはできましたか？

	そう思う	ややそう思う
回答数	3	13
%	11.5	50.0
	肯定的	
%	61.5	

【児童の声】
学習に集中して取り組めるようになりましたか？



肯定的な声が80%！

【課題】

▲裁量ある時間の使い方に差！（学年研・児童理解など）
▲ICTの活用に課題！（個人差）
▲４０分授業の組み立て
▲振り返りの時間の確保

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
羽沢小学校

【持続可能な学校】

本校の持続可能な学校づくりはH29からスタート

①職場の環境改善・学習広場の開設　Ｈ29~

②高学年における教科分担制チーム学年経営　Ｒ１~

５年生７時間の空き時間、６年生９時間の空き時間

③適正授業時数の実施と日課表の見直し

午前中に５コマの授業　児童の下校時刻を14:55に

１時間目を30分授業+午後１コマ60分授業

１年は月・水・金、２年は月・水の午後授業をカット

④福祉作業所の力を活用して

（エアコン・プール・特別教室・教室清掃試行Ｒ４　10月~）

【質の高い学び】

◇教科分担制により同じ授業を複数回実施することによる授業精度の向上

◇空き時間の確保による教材研究の充実

個に応じた指導がスムーズにできるような授業資料の充実

◇日課表の見直しや福祉作業所の力を借りることによる放課後の学年研の充実

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

■**教科分担制の実施や適正授業時数の見直し、日課表の見直しから生み出された時間は、「職員間の情報共有や余裕をもって業務に取り組める」「柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントにはＩＣＴ機器の活用が有効」と捉えている教職員の数は多かった。校内アンケートでは、福祉作業所の力の活用には「ありがたい」「よい」という回答が１００％であった。**

■**日課表改定による放課後の時間の活用も日常化して慣れていくと生み出された時間を有効活用しようとする意識が低くなる傾向も見られた。また、アンケートからは、空き時間を保障しにくい個別支援級の教員の負担感はやや高めであることが示された。日課表の改善だけでなく、勤務状況を細かくみていくと、ほとんどの教職員の４月の時間外勤務が他月より多いことから、校務分掌との関係など、より一人ひとりの情況を把握して改善を考えることが今後の課題である。**

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
富士見台小学校

【持続可能な学校】

- 全学年での教科分担制
- 金曜日5時間授業
- 休憩時間の確保
- 保存文書等のシステム化
- Googleドライブの活用
- 余剰時数の削減
- 4月のはじめや成績シーズンに午後の授業や6時間目を行わない。
- 重点研究の授業回数、自習数の工夫
- 学校だより、学年だよりの精査

【質の高い学び】

- 重点研究や区の研究授業などは学年や部会で取り組み、できるだけ多くの職員が授業を実施する。
- 教科分担制
- 少人数指導
- 教材研究の時間の確保

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

事実
見えてきた課題業務が減り、放課後の時間が本当に少しだが増え、会議が減っている。

ギャップ！

職員アンケート
多忙感は「変わらない」や「忙しい」ということが読み取れるアンケート結果が多い。

本校では、職員室のレイアウト改善など働き方を考える取組を約10年続けている。

考えられること、反省点

要因①　職員の入れ替わりが多く、推進してきた職員がほぼいなくなってしまった。結果として歴史を知っている職員とそうではない職員で意識の差が生まれている。

要因②　一部の人間で進めてしまった。職員の状況と要望をとらえる活動が甘くなっていた。

要因③　仕組みを整えることはもちろん大切だが、それを動かす職員の意識を整えることがもっと大切。入れ替わりのある中で整え続けることが最も難しい。持続可能な学校を持続させるには・・・。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

学校名
六浦小学校

【持続可能な学校】

・年間授業時数を限りなく標準時数に近づくように削減する。
・放課後に時間的な余裕を生む。
・休み時間、授業間の移動時間（５分間）を確実にとる。
・児童の休み時間をこれまで通り確保し、一日の中で児童がホッと一息つける時間を維持する。
・１コマ４５分という以前と同じ授業時間。
・月に２回の区研の日に４時間授業（13:30下校）の日を設定する。
・会議の精選と開始時刻の前倒し。

【質の高い学び】

・放課後の教材研究・授業準備の時間が確保される。
・勤務時間内に支援が必要な児童への対応を検討する時間が取れる。
・下校が早い曜日があることで、児童の生活にメリハリを生まれる。
・時数が減った以外は今までと変わらないことが多いので、児童も職員も新たな対応をする必要が少ない。

【成果や課題・・・エビデンスや教職員の声】

・放課後に時間的な余裕が生まれた。
・会議が以前より早く終わるので、定時近くに退勤しやすくなった。
・時数削減だけでは変わらないことも多い。
・業務量を減らすために、さらに何が精選できるか検討が必要。